

## バイオセラピー学発展実験・実習 (4単位)

担当者氏名 小川 博・佐々木 剛・松林尚志

### ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

バイオセラピー学専攻の人間動物関係学, 人間植物関係学および生物介在療法学の各専修の専門分野の内容を理解するため, 授業担当教員の指導下でバイオセラピー学の各専門分野における課題や目的について, それらを解決, 達成するための実践的手法を習得する。実験・実習のテーマは各専修で設定するが, 学部で習得した内容を発展させ, 修士論文に直接関係するものだけでなく研究者および専門性の高い職業人となるための課題とする。本演習を通じて動植物を活用することによる人の豊かな生活の構築について実践的な活躍ができる人材を養成することを目的とする。

### ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

野生動物                      実験計画法                      動物生態学                      動物生理学  
分子生物学                      プレゼンテーション

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス (第1週)	演習の目的と概要を把握する	◎授業担当者と演習の内容と準備についてあらかじめ充分打ち合わせておくこと◎出される課題に対し、レポートをもとに授業担当教員との質疑応答を行った結果について改善すること◎改善された内容を基に修士論文の課題を整理し、修士論文計画発表会および中間発表会での発表を行う
2	テーマの設定 (第2~3週)	バイオセラピー学における野生動物学の位置づけに沿った演習の課題について具体的内容を設定する	
3	研究実施計画 (第4~6週)	各自の課題の背景, 目的, 方法, 効果等についての文献調査と研究計画の発表	
4	調査手法 (第5~7週)	各自の課題を解決するための生態学, 生理学, 分子生物学等の調査方法, 実験手法等の習得と習熟	
5	調査の実践 (第8~10週)	課題に沿った調査, 試料・資料の収集と分析等の実践	
6	成果のとりまとめ (第11~13週)	成果のとりまとめとレポート作成	
7	成果報告および総括(第14~15週)	レポートの内容を授業担当教員に報告し, 質疑応答を行い, 達成度を確認する	

### ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所 (発行年)  
その都度紹介する

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所 (発行年)  
その都度紹介する

### ◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

事前検討、プログラム、実践およびレポートの評価を総合して行う。

### ◆オフィスアワー

昼休み (12:30~13:00)

### ◆その他受講上の注意事項

指導内容と時間、指導への対応等について記録した月報を作成する。